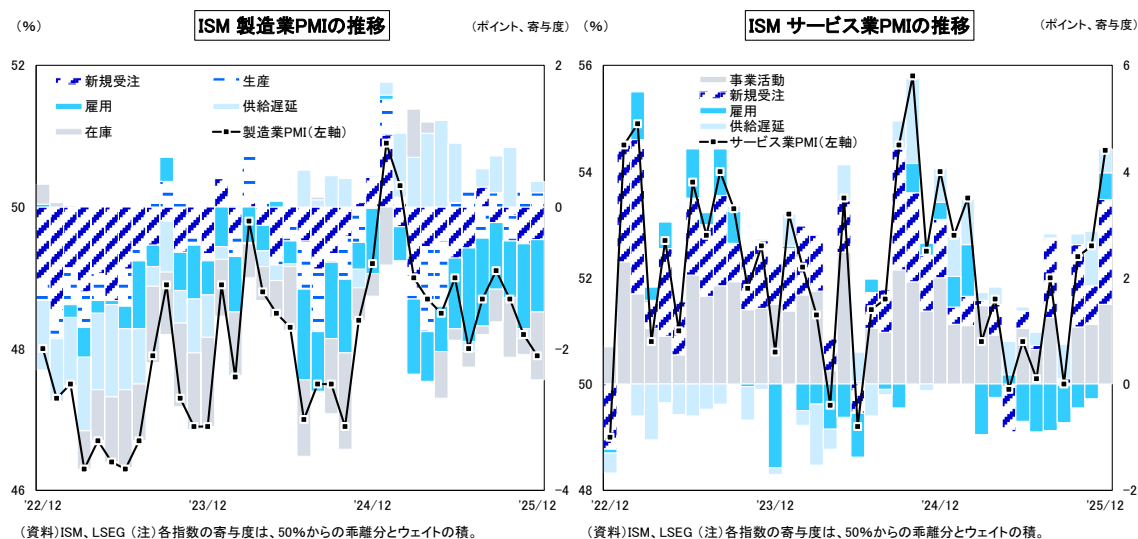


### (米国) サービス業では雇用の縮小傾向が一段落

12月のISM景況指数をみると、製造業指数は前月から▲0.3ポイントの47.9%と、判断基準となる50%を10か月連続で下回り、製造業の縮小局面を示した。一方で、サービス業指数は同+1.8ポイントの54.4%と3か月連続で拡大局面を示し、約1年ぶりの水準となった。

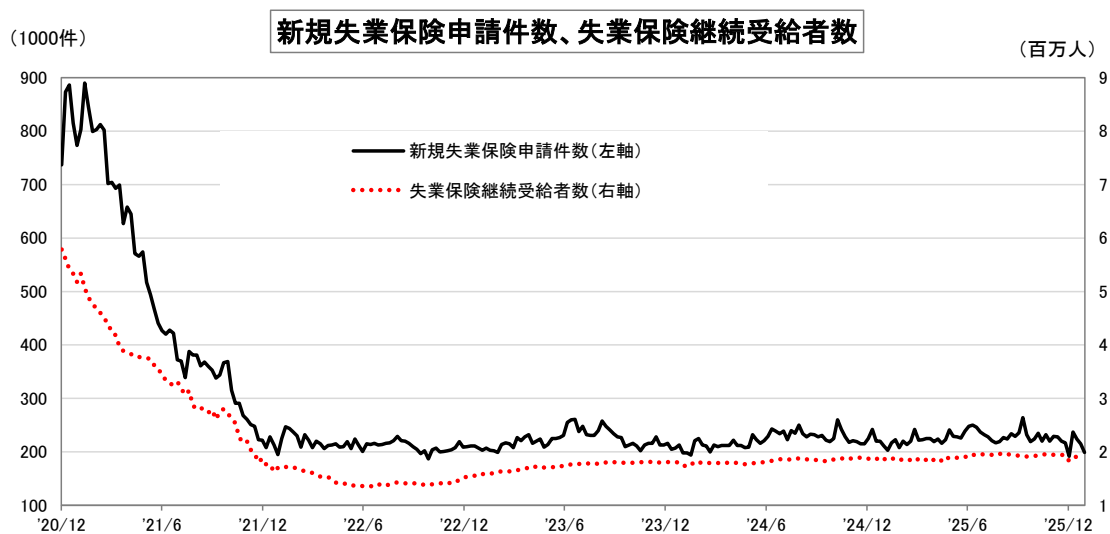
価格指数については、製造業が変わらずの58.5%、サービス業は同▲1.1ポイントの64.3%となり、いずれも上昇傾向が継続している。雇用指数については、製造業が同+0.9ポイントの44.9%と11か月連続で縮小傾向を示唆した。一方で、サービス業は同+3.1ポイントの52.0%と7か月ぶりに拡大傾向となった。

12月のISM指数からは全体として、製造業とサービス業でまちまちな動きが続くなか、これまで縮小傾向であった雇用については、サービス業で縮小傾向が一段落したことがうかがえる。



加えて、米労働省雇用訓練局が公表した新規失業保険申請件数(12月27日終了週)は、19.9万件となり、先週から1.6万件減少した。失業保険継続受給者数(12月20日終了週)は186.6万人と先週から小幅に減少した。また、7日に公表された12月のADP雇用統計では、民間雇用者が前月から4.1万人増加した。

ビジネスラウンドテーブルが集計した、25年第4四半期のCEOによる雇用見通しでは、今後6か月にかけて雇用増、変化なし、雇用減予想がそれぞれ26%、40%、35%となった。このため、26年前半にかけても緩慢な雇用増加ペースが続くと見込まれる。



(資料) 米労働省雇用訓練局、LSEG